

企画展「近世の村すがたを映す越原家庄屋文書」展示紹介

中日新聞 令和6年（2024）12月4日（水）掲載



年貢や飢饉に関する古文書などが並ぶ会場＝瑞穂区汐路町3の越原記念館で

江戸期の村の暮らし
古文書100点超で紹介

瑞穂区の越原記念館

学校法人越原学園による企画展「近世の村すがたを映す越原家庄屋文書」が、瑞穂区汐路町3の名古屋女子大内にある越原記念館で開かれている。同大の創立者・越原春子（1885～1959年）の生家（現・岐阜県東白川村越原）に残された古文書を展示し、江戸時代の村での暮らしぶりを伝えている。来年2月13日まで。入館無料。

企画展は、同園が2025年に創立110年を迎え

るのに合わせて開催。会場では、田畑の測量結果をまとめた「検地帳」や、年貢や飢饉の状況について記した文書、現在の戸籍に当たる「宗門改帳」など、100点以上の史料を展示。越原家が運営していた寺子屋の生徒の心得を記した「掟書」も紹介している。

越原記念館の学芸員を務める鈴木孝子さんは「宗門改帳からは当時の村の人口や家族構成が分かる。江戸の暮らしがどうだったのか見ていただけたら」と呼びかけている。

土日祝日や学園休園日などは休館。